



まき割りなどの冬支度をするワングル部の皆さん

山小屋の冬支度

10月28日、法恩寺山中腹の標高1,000メートル付近にある避難小屋「中の平休憩所」で、今年も市職員のほか関西学院大学ワンダーフォーゲル部員4人も参加し、冬山登山者のための「冬支度」が行われました。室内の清掃やストーブの点検整備などのほか、紅葉真っ盛りの屋外では、おのを振り下ろしてまき割りなどの作業に精を出していました。まき割りを主に担当したワングル部員4人は、最初おの使い方に手間取っていましたが、すぐに慣れて次々とまきを割っていました。今回初めて参加し、来春に卒業する同部勝山交流系の足立友範さん(商学部4年)は、「後輩には来年以降も続けてほしい。」と話していました。市では、冬山登山の安全でマナーを守った山小屋の利用を呼びかけています。



訪れた人々を魅了した、一面に広がるコスモス畑

満開のコスモスに
喜びいっぱい

人権啓発の願い込め、風船飛ばし

10月21日、荒土小学校で全校児童101人が参加して、人権啓発紙風船飛ばしが行われました。福井人権啓発活動地域ネットワーク協議会が主催したもので、世界人権宣言から60周年となるのを記念して、自然に分解される材料を使った赤、青、黄、緑の紙風船計60個を用意。児童は道徳の時間に、「友だちの心を考えて」「困っている人を助けよう」「いじめはやめよう」などのメッセージや絵を風船に書くなどして準備をしました。笠羽忠恭校長が「周りの友達と仲良くすることから始めてほしい。」とあいさつし、6年生の島田凌大さんの「友だちと仲良くしよう。」の掛け声で一斉に大空へ飛ばしました。児童は、「思いが遠くまで届くといいな。」と、風船が小さくなるまで見上げていました。また、同協議会からはクロッカスの花の球根も贈られました。



一斉に風船を飛ばし、小さくなるまで見守る児童

10月12日、野向町薬師神谷で恒例の「のむきコスモスマツリ」が開催されました。当日は心地よい秋晴れの中、近くの休耕田に植えられたコスモスはちょうど見ごろを迎え、赤やピンク、白色の可憐な花を一面に咲かせていました。かつやま恐竜の森で開催されたうまいもん祭に訪れた観光客も足を伸ばし、思い思いに記念撮影をしていました。さらに、コスモスを自由に持って帰られるとあって、背丈ほどに伸びたコスモスを両手一杯に摘んでいる親子連れも見られました。また、薬師神社では、和太鼓などの奉納やじんだ汁のふるまいなどがあり、地元のかたで賑わっていました。

元気に楽しくミュージカル!

ドラゴン・ファミリー

今年で5回目を迎えるミュージカル劇団「ドラゴン・ファミリー」の公演。11月29日午後7時から、市民会館大ホールで開催される本番に向けて皆さん特訓中です。

今回の公演は、「山で生まれる」その年ばかりは魔法を見た〜をタイトルに、山の中の小さな村で子どもたちが森を再生する勉強をしているところから始まるという内容。ユーモアと感動に満ちたストーリーに仕上がっています。

主演の幸太役の黒田明弘さん(荒土



小5年)は、「台本をもらった最初は不安だったけれど、今は自信がついてきました。本番は楽しくやります。」と力強く話してくれました。建設会社社長の子ども役を演じる多田弥生さん(勝山北部中3年)は、「とても楽しいです。意見を言える雰囲気もいいです。本番を楽しみにしてください。」と大変張り切っていました。30人のファミリーは、振り付けや作曲、演奏、合唱などたくさんのかたがたに支えられて、着実に力をつけてきています。結成以来、ずっと先頭に立って指導してきた川村信治さんは、「現在の中高生のファミリーは、小学生の時から参加し育ってきています。いつも部活やテスト、生徒会などで忙しく、練習に参加できないことが多いのですが、それはそれでいいというスタンスでここまでできており、それは大事にしたいです。」と述べています。普段の会話は非常に明るく、練習も元気で楽しそうに見受けられます。本番に期待がもたれます。

すてきに人生

支えてくれた皆さんに感謝します!

10月11日から13日までの3日間、「第8回全国障害者スポーツ大会」が大分県で開催されました。その結果、勝山市からは、一般卓球二部に(40歳以上)で新田鉄也さんが3位に、サウンドテーパールテニス二部に、サウンドテーパールテニス二部(40歳以上)で幅田郁子さんが3位に、ボウリングで芳沢正浩さんが5位に入賞しました。



左から、芳沢正浩さん、幅田郁子さん、新田鉄也さん

新田さんは、最初の1回戦で敗れ、敗者復活戦で勝ち上がったの3位です。「入賞できたのは、支えてくれた皆さんののおかげ。感謝しています。ただ、1回戦で敗れた相手が優勝したので、それを思うと悔しい。」と、ちよびり胸の内を語ってくれました。幅田さんは、大差で勝つこともあれば、フルセットの末にやっと勝つこともあったそうで、「今回、21ポイント制で緊張する時間が長くとても大変でしたが、主人をはじめ皆さんの支えのおかげと感謝しています。」と、満足そうな表情で話してくれました。

芳沢さんは、30年間ボウリングを続けており、今回県大会1位となつての出場でしたが、「競技中に体調が悪くなった。7年前には優勝しているのに、順位にはちょっと残念。でも、皆さんの励ましには感謝しています。」と、少し悔しうに話してくれました。今後について3人も、「練習を重ね、さらに上を目指したい。」と、抱負を述べられました。